

第3回 青森市総合計画審議会 第2分科会 議事要旨

- 【日 時】 令和6年1月26日（金） 15:00～15:55
- 【場 所】 ホテル青森 3階 あすなろの間
- 【出席者】 児玉 寛子 分科会会長、柿崎 泰明 委員、北畠 滋郎 委員、
佐藤 洋子 委員、對馬 明帆 委員、成田 幾末 委員、張山 英和 委員
計7名
- 【欠席者】 なし
- 【オブザーバー・傍聴者等】 なし
- 【関係部局】 館山総務部長、横内税務部長、佐藤市民部長、大久保福祉部次長、
千葉保健部長、船橋経済部次長、土岐都市整備部理事、
奈良市民病院事務局長、小野教育委員会事務局教育部長、
村上青森地域広域事務組合消防次長 計10名
- 【事務局】 太田企画調整課長、中村企画調整課主査、相馬企画調整課主事 計3名
- 【配付資料】

- ・次第
- ・今後の主なスケジュール（基本構想答申まで）
- ・新総合計画と現総合計画の基本構想構成比較表（案）
- ・課題（案）及び目指すべき方向性（案）の取りまとめ
- ・「青森市総合計画 基本構想」素案
- ・青森市総合計画の体系図イメージ（仮）

【会議概要】

○事務局から、今後の主なスケジュール、基本構想の構成案並びに各行政分野の課題（案）及び目指すべき方向性（案）の取りまとめについて第1回総括分科会において審議された内容を報告した後、基本構想素案の文章案について説明し、各委員が意見を出し合った。

○審議、質疑応答の概要

基本構想の構成案、課題（案）及び目指すべき方向性（案）の取りまとめについて

（委員）

- ・資料3の1枚目、目指すべき方向性の⑧「児童生徒一人一人が、一定の集団の中での活動を通じて資質や能力を伸ばすことができる適正な学校規模の確保など」とあります。これはおそらく学校の小規模校の統廃合のことかと思いますが、適正な学校規模が必ずしも望ましい教育環境に直結するとは限らず、適正な規模でも環境が適正でない場合がありますので、統廃合後の学校でも児童・生徒へのアフターケアというところも、今後含めてもらえればと思います。
- ・2ページ目の⑩で、「異なる文化・価値を乗り越えて」という表現ですが、これは障害に

なるハードルを超えるというイメージがあるのですけれども、実際の小中学校の子どもの異文化理解とか価値観の理解というのは、むしろ興味津々な部分でありますので、乗り越えてという表現は、その意味ではふさわしくないのかなという気がしました。

基本構想素案の文章案についての議論

(委員)

- ・1番目の未来を担う人財の育成のところで、子どもや若者の学びやキャリア形成を支援するというはもちろん、働き盛り世代や高齢者の再教育や再就職の機会を提供することが必要だと思っています。社会や経済の変化に対応できる柔軟な人材を育てるためには、生涯学習の推進や職業訓練の充実が欠かせないと思います。

(委員)

- ・資料を読んでもみると、なかなか総合的にいい方向に書いてあると思います。
- ・今の青森市の医療の現状に関しては、医師の高齢化と減少により、誰もが希望する時に希望できる医療を受けられるという状況からはちょっと離れてきていることを認識しておいてほしいと思います。
- ・高齢者の包括ケアシステムというものがありますが、希望された場所で最後まで暮らすという非常にいいことを書いているけれど、地域包括システムの中で抜けているのは、どこで亡くなるか、どこで死ぬかという概念です。国では、現在、入院とか病院で亡くなることを抑制しようとして、在宅で亡くなるということを盛んに言っています。私も在宅医療をやっていて自宅で亡くなることを希望される方はいますけれど、最終的にはどうしても病院に行くとか、救急搬送で運ばれるということもありますので、どこで最後を迎えることを希望するかということも市民に知ってもらえるようなものを作れるといいのかなと考えております。
- ・今の能登半島の地震で支援から帰ってきた医療者から聞いたのですが、能登半島の地域の自治体で助け合いのシステムがすごくよくできていて、それがすごくうまく機能したということでした。青森市でも地域との触れ合いを強くしておかないと、大きな災害があったときはいろんなことが起こる可能性があります。地域コミュニティというのを大事にしていったほうが、大きな災害のときには役に立つのかなと感じました。

(委員)

- ・文章内容としては全く異論なく良いものだと思いますが、今言われて思ったのは、これは絵に書いた餅でしかないなということです。4月以降に具体的に議論をするときに、その議論の内容が具体的にやっていけるのかという不安も感じます。
- ・今、委員がおっしゃったように、人の繋がりというのは私もすごく感じている部分で、実際に誰がやるかという、他力に頼っている部分をすごく感じますし、昔のほうがコ

コミュニティは良かったという思いもあります。今は高齢化だからできないのではなくて、若い人たちがコミュニティに対しての魅力を感じなくなってきたという部分があると思います。実際に先月、地域の子どもたちや若い人向けにアンケートを調査した内容を見ますと、やはり県外に行きたいという人が多い。また、SNS やテレビの情報に魅力を感じている人が多い。これから、分科会で皆さんと議論していく中で、子どもや子育て世代の人たちに、どうやって心から地域に魅力を感じてもらおうかということを考えていかなければならないと感じました。

(委員)

- ・第2分科会の関係とは違いますが、今後検討していただきたいと思うのは、資料2の中で現総合計画の第2章まちづくりの目標の中の「(6) 自然環境の保全」というのがありますが、新しい計画の内容には、自然環境の保全的なものがないようです。私は、青森市が今後発展していく都市になるためには、やはり八甲田山とか自然豊かな部分をどんどんアピールしていくことが大事だと思っています。八甲田山に関しては、海外の方が多く旅行に来ていただいています。青森市は雪が多く降る都市では世界一位で、これをもっとアピールして海外からの旅行者だったり産業にも着手していくことによって子どもたちが最終的には青森市に定着していったり、そういった仕事があることになっていくのではないかと考えています。青森市には海外の人や都会の人が自然を求めに来るケースもたくさんあると思うので、自然環境の保全や自然をアピールしていく都市を目指していくべきではないかと考えています。
- ・第3章の基本政策の人をまもり育てるという中の「(1) 未来を担う人財の育成」ということで、人財の財を財産の財にさせていただいたというのはとても気に入っております。

(事務局)

- ・委員からお話がありました自然を守るというところですが、資料2の右側が現在の総合計画でピンク色の枠になっていますが、課題に対する目指すべき方向性を現計画では第2章に書いている状況です。今回の計画案としましては、その場所は黄色の部分になっていて、この黄色の部分は目指すべき方向性ではなくて横串を指すというイメージで政策を実施するときの視点という形でまとめています。さらに、自然環境の保全という目指すべき方向性は、基本政策3の政策「(5) 未来につなぐ自然環境の保全」として、こちらで八甲田山などの自然が大事だということで、目指すべき方向性としてまとめております。
- ・社会人の学び直しや高齢者の生涯学習のところについては、資料4の1ページの「1 仕事をつくる」の「(1) 活力ある地域産業の育成」の2段落目で、「若者、女性、高齢者などの多様な人材が多様な働き方で活躍できる魅力ある環境づくり」ということをこちらで記載させていただいています。

- ・生涯学習に関する部分は、2 ページ目の「2 人をまもり・そだてる」の (1) 下から 2 行目、「誰もが生涯にわたり知識や技能を学び、地域や社会に生かすことができる学習環境の充実を図ります。」ということで記載しているところです。
- ・その他、委員の皆様からいただいた御意見に関しましては、分科会会長からも御説明がありましたとおり、事務局でまとめまして反映の仕方や扱い方を分科会会長と今後協議させていただくということで御了承をいただきたいと思います。
- ・具体的な取組に関するお話もありましたが、この基本構想は 10 年の期間となっていて、具体的な取組を記載する基本計画は、前期 5 年、後期 5 年という期間で実施しますので、基本構想に書いたものをいきなり全てやるというものではなくて、10 年間でこの構想に向けた取組をしていきたいと考えております。

○今日の意見の取扱い等の事務連絡を行い解散。